

アジア科学技術コミュニティ形成戦略：機動的国際交流事業

1. 提案事業概要

【事業名】	先端生命工学国際シンポジウム 2010
(英語名称)	2010 International Symposium on Advanced Biological Engineering (ISABE'2010)
【提案者氏名、役職、機関・部署名】	梶原将、准教授、東京工業大学大学院生命理工学研究科
【事業形態】*	(1) 国際集会の開催
【実施期間】†	2010年07月23日～2010年07月25日(3日間)
【実施場所】†	Beijing Friendship Hotel, Beijing, China
【参加国・地域】†	中国、日本、韓国、米国、スウェーデン、タイ 6ヶ国
【事業概要】	<p>【背景】21世紀、地球温暖化、エネルギー枯渇、少子高齢化などの地球規模の問題が現実となってきており、特にアジア地域では新興国での経済成長や人口の過剰増加等が生じることから、当該地域が一丸となって資源、環境、エネルギー、健康、医療の諸問題に対する実質的な対策を講じなければならない。そのためには、バイオの基礎研究開発だけでなく、それら研究開発で得られた知見やノウハウを実質的な手段や技術として社会に提供する生命工学分野において、国際協働による技術開発が必要不可欠である。そこで東京工業大学生命理工学研究科は、21世紀初頭よりアジア地域を中心に生命工学分野の技術開発を先導すべく、先ずは中国・清華大学と共同で当該分野の大学間学術交流を活性化させてきた。これまでに両大学間での大学院生の研究交流活動、合同大学院プログラム実施などによる研究交流推進、シンポジウム開催による生命工学分野の研究開発動向の把握、共同研究推進などに取組み、最先端技術開発を通じた親密な学術交流が飛躍的に進展してきている。</p> <p>【目的】本事業は、これまでの本学と清華大学との日中二大学間の生命工学分野学術交流を、アジアを中心とした世界規模に発展させるため、日中の他大学からの積極的な参加や韓国やアセアン諸国等のアジア地域や欧米の国々からの参加による大規模な国際シンポジウムを企画し、“Biotechnology for Sustainable Industry and Society”と題して、人類の抱えている工業、資源、環境、エネルギー、健康、医療の世界規模の諸問題の解決を目指す最先端の生命工学の研究開発に関する学術交流する場を提供し、出席者間での国際的学術交流・共同研究を活性化させ、出席者を中心としたグローバルネットワーク形成を図ることを目的とする。</p> <p>【計画】本シンポジウムは、参加者約220人(中国人150名、日本人50名、他国人20名)で以下の構成で行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全体セッション(生命工学分野の研究開発総論や世界での当該分野の教育研究の具体的な取組み等) 2. 分科会セッション(工業、環境、エネルギー、健康等の専門領域毎に区分した最先端の研究開発発表) 3. 若手研究者セッション(大学院生を主体とした優れた技術開発の発表) 4. ポスターセッション(参加学生・若手研究者のポスター発表、ポスター賞設定) 5. 企業セッション(参加企業の研究開発紹介と産学連携等についての意見交換) <p>【展望】本シンポジウムは、アジアを中心とした最先端生命工学研究開発の国際的交流の場となり、積極的な議論や意見交換が行われることを期待している。そして本事業を機に、生命工学分野のアジア各国の研究者の相互理解、点から線への研究開発ネットワーク拡大、国際的産学連携の実質化などを推進する国際的コンソーシアムの形成を企画し、また日中を中心としたアジアの大学院生の国際的視野を広げ、研究開発への興味を刺激し、次世代のアジアそして世界のリーダーとして必要な資質を養成する教育研究ネットワークとしても位置付ける。</p>